

## 市民検討委員と専門委員による市民ホール基本計画意見交換会要旨

開催日時：平成24年1月9日（月・祝）午後1時45分から午後4時30分

開催場所：小田原市民会館3階 小ホール

参加者：市民検討委員29名

1班：事業、運営システム、組織、市民参加などについて

2班：施設機能について

※参加者を2班に分け、前後半でテーマを交換

傍聴者：12名

[専門委員参加者（敬称略）]：6名

	氏名	選出区分	所属等
委員長	桧森 隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長／文化政策・アートマネジメント
副委員長	勝又 英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学
委員	市来 邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター技術部長 せたがや文化財団
委員	伊藤 由貴子	音楽系	神奈川県立音楽堂館長／神奈川芸術文化財団
委員	桑谷 哲男	ホール管理運営	座・高円寺支配人／NPO 法人劇場創造ネットワーク
委員	三ツ山 一志	展示系	横浜市民ギャラリーあざみ野館長 横浜市芸術文化振興財団

[事務局]：10名

[事務局補（コンサル）]：4名

所属	氏名
空間創造研究所	草加 叔也
	橋爪 優子
	中俣 美沙
	瓜生 陽

市民検討委員と専門委員による市民ホール基本計画意見交換会 次第

日 時 平成 24 年 1 月 9 日(月・祝)

13 時 45 分～16 時 00 分

場 所 市民会館 3 階 小ホール

1 開 会

2 市長あいさつ

3 意見交換

(1) 意見交換前半

(2) 意見交換後半

4 閉 会

ハード系

項目		市民検討委員		専門委員
ホール 共通	1 班	<ul style="list-style-type: none"> <li>小ホールの客席数について。200 席～300 席としている表記と 300 席としている表記がある。大ホールも 1000～1200 席と表記している部分と 1200 席と表記している部分がある。理由を教えてください。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>300 席としているのは面積検討をする際に大きい数値を採用して検討をしているからであり、300 席で決定したという訳ではない。また、全席固定では無く、一部可動にすることで演出の自由度が広がるので舞台を張り出して利用するときは 200 席、そうでないときは 300 席とできるようにしようという提案でもある。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>可動席となると質が悪くなるのではないか。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>可動席でも固定席と同じ仕様にする事ができるので問題ない。</li> <li>大ホールについてはオーケストラピットを使用することで 100 席程度前後する意味で書いている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>人口呼吸器を使用する人が客席とは離れた別室で公演を観るのではなく、客席と同じ空間に普通に鑑賞ができるようにしてほしい。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>客席を取り払って対応するなど、できるだけのことができるよう配慮する。</li> <li>車椅子利用者でも通常のように好きな席を選ぶ権利があるのは理解できる。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>大・小ホールの搬入口を別々に設けることと、搬入口を舞台と直結した位置としてほしい</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽屋の廊下をまたぐ可能性はあるかもしれないが、そのように計画する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけバックヤードを充実してほしい。大・小ホールだけでなく展示室にも。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>そのように計画する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>大・小ホール、スタジオの機能について考え方を伺いたい。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>小ホールは客席の前の方は可動するが基本的には固定席、平土間の演劇もしたり、もっと自由に使える部屋を大スタジオとした。前の班からも展示スペースが足りないではないかという話が出ていたが、大スタジオでも展示ができる機能を改めてつけてという話があった。</li> <li>椅子は固定ではないので労力を使って並べなくてはならないがなんでもできる場所をつくった。</li> <li>大スタジオの規模については大ホールの舞台に準じると書いている。</li> </ul>
	2 班	<ul style="list-style-type: none"> <li>搬入口は各ホールに一つずつは確保してほしい</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>そのように対応していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>設計者はデザイナーなので、自分の思う形にしてしまうイメージがある。機能を確保してほしい。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>演劇には演劇の、音楽には音楽の心地よく聞こえる響きがある。それを設計者には要求し、それを確保するために、専門委員のような立場のものが目を光らせていく。そのバックボーンに市民の皆さんがいることは強い。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>座席について、贅沢で無くても良いので、とにかく座り易いよう、一席ずつゆったりとした空間を確保してほしい。</li> </ul>		

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中途半端はやめて欲しい。音に特化するなら特化して欲しい。どこにでもある多目的ホールは良くない。小田原のホールでないといけない音のホールにして欲しい。</li> </ul>		
大ホール	1班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台袖をできるだけ広くとっていただきたい。両袖合わせて10間程度確保してほしい。計画に明記せずに、設計者によってぶれることが無いようにしてほしい。</li> <li>・大ホールの椅子の千鳥配置は非常に見やすいので採用していただくよう是非お願いしたい。</li> </ul>		
	2班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大ホールは是非シューボックス形式にしてほしいが、そのように基本計画に具体的に記載してほしい。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には音楽にも演劇にも対応できる施設として考え、空間構成としては1階だけでは全客席数が面積的に入らないので客席は2階あるいは3階になると考える。そうするとコンサートホールのようなシューボックス型ではないことは前提。</li> </ul>
小ホール	2班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小ホールを固定席とし、音楽重視と決められたとのことだが、そのように決めた理由や議論の経緯を聞きたい。音楽に特化し、舞台転換など「表現の自由度を付加する」機能は無いと考えた方がよいのか？</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小ホール2つという夢もあったが、現実にはそうもいかずという中で議論し、小ホールを固定席とし、スタジオを可動席とした。</li> <li>・小ホールの反射板も可動であり、音楽利用に特化するとしたわけではない。反射板をとれば袖ができ、客席側の残響を調整できる工夫を考える多目的なホールにしていく。</li> <li>・平土間で無いと表現できないなど演劇の自由度を確保するためには、大スタジオで対応できるよう大スタジオを今回の位置づけに変更した。</li> <li>・小ホールに舞台袖を持たせたのも、施設の規模が小さいので音響を重視したとしても演劇と併用が可能なちゃんとした多目的ホールがつかれるだろうとなった。</li> <li>・固定席は、どうしてもという声が強かったことについて、我々も肯定した。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本格的な固定席の小ホールが市内にはなく、固定席にこだわったが、そうなっていて良かった。一部可変となっているがどうか。</li> <li>・小ホールの集会機能についても考慮してほしい。賀詞交歓会の開催なども現在の市民会館（本館）は担っている。それらを新しい施設のどこでやるのか。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前の部分だけ取り外せることを想定している。その方が使い易い。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「残響多め」と記載しているが「音質重視」へ変更してほしい</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私から専門委員会で申し上げた。空間の音響を決めるのは残響時間だけでは無い。例えば伝統芸能などは残響時間は短めであることが求められる。修正したい。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>機能図に小ホールの楽屋機能が書かれていない。</li> <li>自分は演劇をしている立場だが、小ホールの固定席化には賛成。やりたいことは皆さん沢山あると思うが、市内には他の施設もあるので、それらを活用させるためにも、色々な機能を求めすぎるのは良くないと思う。基本は、市民会館の代替施設にリハーサル室など必要な機能を盛り込むと考えていいのでは。</li> <li>小ホールのプロセニウムは可動か。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロセニアムの扱いなどは設計の中で解決していく。求めるのは、音質の良いコンサートホールとして機能するホールをつくっていくこと。</li> </ul>
スタジオ	1班	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示室と大スタジオのつながりを重視してできるだけ近づけて配置してほしい。展示室で展示をしながら大スタジオで作家のワークショップをするようなときに大移動というようなことはしたくない。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>必ずしも同レベルで隣接してということではないが、大スタジオと展示室はできるだけ近づけてほしいと要求をする。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>大スタジオの椅子はスタッキングとなると思うが、パイプいすではなく良い椅子を採用してほしい。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>コストとのバランスになるが2時間我慢できるような椅子には必ずなる。</li> <li>今の市民会館の基準でお考えにならないほうが良い。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ロールスクリーンなどで見られたくない時は見えないようにできるが、活動を見てほしいという団体が利用する時は外からの興味を持てるような空間が通り沿いにあると良い。大きな建物だと排他的になりがち。何気なくみて次は入ってみようと思える工夫が建物にあると良い。</li> </ul>		
	2班	<ul style="list-style-type: none"> <li>大・中スタジオの大きさが読み取れない。大スタジオ、中スタジオと言うと神奈川芸術劇場（KAAT）のスタジオしか思い浮かばない。KAATの様な機能を有するイメージなのか。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>大スタジオは、大ホールの主舞台に準じる大きさとしている。半分の広さに150人位入れる、いわゆる小劇場の大きさと考えている。</li> <li>KAATは稽古場を劇場にもしてしまうという発想で作ったスタジオ。小田原での場合はあくまでもリハーサル室という考えを残しつつ、マルチスペースという意見が出ていたので、ある程度の照明などの設備はつくという位置づけで考えていただきたい。</li> </ul>
展示室	1班	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示室は、展示できる面積として最低400㎡は欲しい。でないと現在行われている展示ができないので再考してほしい。ワークショップなどをする場合はさらにもう少し部屋が欲しい。書道連盟の展覧会も厚木で施設を借りて実施している。ワークショップなどに利用できる室が隣接して使えればいいが。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>使える部屋は沢山あった方が良い。</li> </ul>

	2 班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展示スペースだけで 400 m<sup>2</sup>を確保してほしい。それだけの広さがあれば、良い企画ができると考える。運営面かもしれないが、市内で一番大きい西相展が市民ホールでできるように、その時には大スタジオを展示に使い、展示室＋大スタジオで対応できるなどしてほしい。</li> </ul>		
設計 敷地 景観 デザイン	1 班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設計・建築に地域の素材を活かすことを基本計画に入れて欲しい。小田原は木の文化が盛んなので、小田原産の材をできる限り使って欲しい。木を活かす小田原市全体の動きもある。特に小ホールは小田原ならではの木のホールを実現して欲しい。前回の城下町ホールは地域の素材を活かすことという文言が要項に含まれていたが、前面ガラス張りのホールが選ばれた。しかし我々市民はそれを否定した。地域の愛着を持つべき。同じことを繰り返さないためにはどうすればよいか。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の素材が万能であるかというところではない。それはきちんと検討すべき。</li> <li>・ 今回は市民検討委員の意見として必ず残る。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来のニーズの変化に対応できるような、設計をして頂き、今後設備や部屋の変更可能な設えにしていきたい。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当然やっていかないといけないこと。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的な案がないと見えてこない。配置だけでもわかるとイメージしやすく、やろうという気になる。お堀端通りに面してオープンロビーになるということだけでも分かれば。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お堀端通りに面することになると思う。通り側 30mはできるだけセットバックするなども言えると思う。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小田原は水路と石の町でもある。外壁にコンクリート打ちっぱなしではなく、環境調和を考えるのであれば石を使っていただきたい。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての素材を必ずつかうと、この場で明言することは難しい。特に石の採用はコストなど今後慎重に検討する必要がある。</li> </ul>
	2 班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敷地面積ほどの程度か。</li> <li>・ 敷地面積に対しての有効建築面積ほどの程度か。</li> <li>・ 建築面積一杯に建物が詰め込まれる印象であり、景観などは論じられない。施設計画案を提示して貰えないと、建物の中身は論じられないのではないのか。</li> </ul>	→  →  →	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 万 m<sup>2</sup>程度。</li> <li>・ お堀端通りから 30m はできるだけ建物をセットバックすることを考えると、建築面積は敷地面積の 50%～60%、5～6000 m<sup>2</sup>になるのではと想定している。</li> <li>・ 過去の計画では、敷地面積が狭いためお堀端に面して積み重ねるしかできず、建物が迫立つ印象が強かったが、今回の計画に際しては面積をできるだけ大きく確保しようとしているので、以前よりはボリュームが大きくなるかとは思っている。しかし、以前より必要面積（諸室要望）も増えているので、今後ボリューム検討のための施設計画案は作成したい。</li> <li>・ 周囲を考える上では、モデルプランは必要と考えている。ただし、モデルプランは必ずしもその通りにはできないので、どのへんは理解していただきたい。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・三の丸地区で予定地は城址である。城に影響されたデザインの施設となるのか。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30年40年使われるので、数十年後を見越したデザインが出てくることを期待する。設計者によるところも大きいですが、突飛なデザインにはならないよう、今後の選定の過程で留意するしかない。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計者は、著名な方にするのか、無名でも素晴らしいものを作れる人にするか。十分に検討したものを投げかけ逆指名して作ってもらうのがよい。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の意図をくみ取れるこの人だと言う人がいればその人に任せるのが本来は良いが、公共施設であるため、それは難しい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・期待するのはハードとしての文化的価値。市民のよりどころとなるハードにして欲しい。</li> </ul>		
防災	1班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災ほどの震災が発生した場合、必ず帰宅困難者がでる。一時避難所としての機能を果たせるように考えて欲しい。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽堂についても県や市から同様の依頼が来ている。世の中のホールは3日間の食物と雨露を凌げる対応をする方向になりつつある。ただ、劇場・ホールなのでずっと避難所になるかというところではない。短期的なものとは少し異なるように思う。</li> <li>・行政から避難所の指定を受けると、食糧・水などの備蓄用の部屋を義務として設けなくてはならない。帰宅困難者を受け入れることと、避難所として指定されることは全く性質が異なる。劇場・ホールは現状どこも避難所にはなっていない。それは大きなガラス面があるなど空間が大きいから。</li> <li>・今回の大震災で、劇場は客席の天井が落ちるなどの事例が多かったため、客席空間は避難所にはならないだろう。また客席に座ると狭いためエコノミー症候群になる。帰宅困難者を受け入れるなら、ロビーや平土間のスタジオになると思う。天井が高くない所でないとならない。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホールが避難場所となる場合は、NPO法人等のためのスタッフルームを活用してはどうか。小田原市には現在200以上の文化団体がある。今のスタッフルームでは非常に小さい。団体数に合わせた大きさのスタッフルームがあれば、避難所への対応にもつながるのではないか。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波の時のために30m以上の高い所、例えばフライタワーの上部を避難階として欲しい。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘリコプターの発着についてはホバリングでの発着であればありうるかも知れないが、屋上をヘリポートとするにはヘリコプターの重量を構造上難しい。</li> <li>・フライタワーを開放している事例はあるが避難のためで無く、展望用である。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋上庭園などになっていて、避難もできるよになっている設計だってありうるのでは。フライタワーの上に上られるエレベーターを設ければ良いのではないか</li> <li>・防災設備のためにホール機能に関わる設計の部分までに圧力がかかり手薄にならないか心配している。現在求めるホールは市民の希望が多く盛り込まれている。防災のためにそれらが追いやられることになる理想の建物が実現できるか心配している。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フライタワーの上部は無理だと思う。エレベーターを付けてまでとなるとランニングコストも相当かかる。相当の覚悟が必要。</li> </ul>
			→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災で損壊している劇場の情報を今この中で多く持っているのは私だと思うが、構造的な部分では津波以外で損壊した施設はほとんどない。天井落下については、国土交通省が見直しをしているのでおそらく機能に影響を与えることは無いと思う。あるとすれば避難所指定くらい。</li> <li>・天井落下しないよう補強をする等、躯体（構造体）のような見えない所で防災のためにコストがかかるということはあるかもしれない。現状の設計基準でも耐震上は全く問題ない。しかし免震工法の導入など、今以上の強度をとった場合には、現在検討している以上のコストが必要になる。</li> </ul>
その他	1班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への配慮と書かれているが、環境調和を考えるレベルまで踏み込んで欲しい。景観だけには限らない。</li> <li>・託児室について、キラリ☆ふじみのようにガラス張りで見えるオープンな部屋より、外から見えない方が、親が子から離れやすいなどの理由で使いやすいのではないかと。多目的に使える普通の部屋にトイレなどが付いているなどで良い。</li> <li>・使い勝手が見えていないが、練習室にしろ、転用できるように配慮すればよいのではないかと。</li> <li>・エレベーターについて。車いすが中で回転できる広さのエレベーターの設置をお願いしたい。</li> <li>・トイレについて。ベビー用シート・ベッド、オストメイト用洗浄機を設置してほしい。またセンサーによる開閉はやめて頂きたい。</li> <li>・施設の段差をできるだけ減らすよう配慮していただきたい。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・託児室は使い回しができ多目的に使える室がよいのではないかと。</li> <li>・授乳室も遠くに行かずとも良いように、所々に設けるのがよいとの話もしている。授乳などは外から見えない程度で良いかもしれない。</li> <li>・託児室は声が漏れないなど、防犯上のことも含め仕様に書いていく。</li> </ul>
			→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エレベーターと多目的トイレは当然設置するが、仕様については今後検討を重ねていく。</li> <li>・身障者のためと言うことでは無く、高齢者などに対しても、段差などが無いように、また搬入動線ではどの部屋にも大型の備品が搬入できるように段差ができるだけ無いように、ということは専門委員会でも話し合っている。</li> </ul>



2 班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に計画案を見ると「育てる」の書きぶりについては基本構想より後退している感がある。例えば、展示施設の面積が全体で 400 ㎡は基本構想時より小さくなったと思わざるを得ない。他施設、例えば、大・中スタジオ、ワークショップルームなどを併用した展示方法の可能性を記載して頂かないと、既に小田原で実施している一般公募の展覧会の開催は難しい。高校生の育成と言うことでやっている事業もできず、市民に開かれぬ施設と危惧される所だ。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大・中スタジオを展示機能として利用することは可能。展示スペースとしての可能性も含めて考えているので、具体的な表現をいれていきたい。機能図についても、点線表記で展示室と大・中スタジオを繋げるようにする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マロニエやけやきホールなど現在ある施設をそのままにしておくのではなく、新たなホールとの連携や既存施設の改修などで活用してほしい。使い勝手の良い施設が市内のあちこちにあるというのは小田原にとって良いこと。そのため、既存施設のあり方等についても基本計画に明記してほしい。</li> <li>・椅子を並べるのは、片付けも大変なので、けやきホールなどは固定席に改修してほしい。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「機能本位であること」と「使い易い施設とする」という文言は必ず入れてほしい。</li> <li>・設計者にはコスト提案（建設費、運営費共に）もしてもらいたい</li> <li>・エコであること</li> <li>・既にある施設との使い分け、若しくは施設利用の分散化を図ってほしい。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な議論がされていない印象。</li> <li>・建物のあり方や景観、たたずまいについて言及していないし、専門委員会で議論になっていない。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計者の選定方法は決まっているか。設計者の選定方法によって論ずる項目が変わってくる。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ決まっていない。選定方法は次年度の検討の予定。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のスケジュールを教えてください。</li> <li>・観る聴く立場の市民として観やすく聴きやすいホールがあれば十分。箱があっても中身がなければ行かない。</li> <li>・未来の市民に恥ずかしくないものを残したい一心。</li> <li>・観るときに費用がかかるとなかなか行けないので、低コストで使え市民に愛されるものを。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年設計者の選定を行う。</li> <li>・一番難しいこと。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上映会ができるようにしてほしい。</li> <li>・面積の制限で、大ホール、小ホール、展示で機能を削らなくてはならないとなった場合、優先順位等は決めているのか。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つあることが前提で考えている。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛されるホールは愛する市民がいないとならない。使って下さる市民がいないとホールは育たない。ハードは今できあがるが、どのように使うかで、その後何十年使うかが決まってくる。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・良いものを作るとなるとコストがかかり、安くつくとランニングコストがかかるなど、両立は難しい。個性的なものをつくりたくても、様々な腰部を取り入れていこうとすると無難なものになる。矛盾を解いていくのは難しい。</li> </ul>

ソフト系

項目		市民検討委員		専門委員
事業	1 班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、市民会館を利用しているのは市民が中心である。大・小ホールの利用方法の振り分けなども踏まえて、冷静に事業を組み立てていく必要がある。</li> <li>・ プレ事業についての検討は行っているのか。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホールの大きな目的のひとつとして、地域文化振興があるので、自主事業を行わないと目的の達成は難しいという見方が主流である。また、営利目的ではないため、事業が赤字となることも多い。平均すると、一事業につき 50% 程度は自己負担となる。</li> </ul>
	2 班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展示スペースの運営はどのように行っていくのか。400 m<sup>2</sup>のスペースが出来るのならば、専門家を配置して年 2 回程度の企画展を行って欲しい。</li> <li>・ まずは展示室でどのような事を行いたいのかの要望を出すべき。やりたいことによって必要な設備も変わってくるし、美術展を行うのであれば、温度・湿度管理も必要となる。</li> <li>・ 小田原城にて華道と書道をコラボレーションした展示が行われていた。ホールの展示室だけではなく、他施設と使い分けしながら活動を行っていても良いのではないかな。</li> <li>・ 収益性のないことはやめた方がよい。</li> <li>・ 収益性を重視した事業を行う事が必要。専門家により議論を重ねてほしい。</li> <li>・ 本格的な美術館としての機能を持たせるのは無理だと思う。そういうものが無い中でどこまで活動を行っていくのか。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミュージアムとは作品の管理・研究を行う場所、ギャラリーは作品をみせる場所であり、市民ホールの展示室はギャラリーにあたる。横浜市民ギャラリーあざみ野では、市内に横浜美術館があるので、自主企画に関しては教育普及として無料で展示を行っているが、仕事量としてはかなりハードである。</li> <li>・ ホールに所属する学芸員よりも、小田原市全体のアートシーンを見られる人物が必要となってくるのではないかな。</li> <li>・ 展示室にもホールにも言えることだが、創造が目的のひとつなので、ホールの自主事業を行った方がよいだろう。</li> </ul>
組織	1 班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現場に専門家が足りない。評価を行う上で大切なのは、文化ジャーナリストなど、専門家の意見をきちんと聞くこと。専門家を増やしていくことが重要。また、市民が専門家に近づけるよう育成していくことが文化創造となる。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホールで完結するのではなく、広範囲で小田原市の文化を支えていく人材が必要となってくる。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民ホール開館まで、現在の市民会館を 4、5 年は利用して行かねばならない。市民会館を使いやすくする活動を行う組織が必要。</li> <li>・ そういった組織を発展させていくことで、市民ホール開館後の活動にも繋がっていくのではないかな。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の市民がどう参加するかを中心に考えた組織づくりを行って欲しい。</li> </ul>		

	2班	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理・運営は直営で行うのか、指定管理者が行うのか。財団を立ち上げ、そこが指定管理者となることも視野に入れているのか。</li> <li>運営方式の最終的な決定権は市にあるのか。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理・運営方式については今後検討を行っていくが、市の直営で行うとなると、ホール職員の雇用形態が難しくなる。また、運営方法の最終的な決定は市が行うことになるが、市民の考えを聞きながら慎重に検討していきたい。</li> <li>昨今の管理・運営の傾向としては、財団やNPOが指定管理者として行っている事例が多い。ただし、指定管理者といっても、市から直接指名される場合などのあり、ケースバイケースとなっている。どの方式にしる、メリットとデメリットがあるので検討が必要である。</li> <li>行政が運営を行うと、複数年度に渡る契約や事業が行いにくくなる傾向がある。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>組織で一番重要なのは「人」である。トップにどういった人材を持ってくるのかが鍵となる。</li> <li>人を呼べる企画を把握することが重要。</li> </ul>		
市民参加	1班	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の評価を市民が行っていくことで、運営の在り方が変わっていくのではないか。</li> <li>評価機関をどこに置くかの案を提示してほしい。</li> <li>市民意見が取り入れられる仕組みをどうやって作っていくのか。また、小田原というまちを、どうアピールしていくのか。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民参加にも色々段階がある。ホールを借りる、事業に参加する、事業の一部を企画する、ホールの評価を市民も加わって行うという段階を経て、市民が参加していけるようになれば良いのではないか。</li> <li>貸出や減免などのルールを、市民を含め決めていく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>文化サポーターという組織があり、15名程度で企画イベントを行ったが非常に大変だった。イベントを行うには労力がかかり、そういった人々を多く集めるのは大変だろう。また、市民が参加してプロとなるのは難しい。プロに任せる部分と市民が参加して担う部分の両面が必要。また、今あるそういった活動を、今度どう広げていくかが課題となる。</li> </ul>		
	2班	<ul style="list-style-type: none"> <li>市が直営で運営することになった場合、ホールで働きたい市民はどの様にすればいいのか。雇用を生むという意味でも、市民も職員として働けるようにしてほしい。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民参加と職員として雇用されるのではまったく意味合いが違ってくる。</li> </ul>
運営	1班	<ul style="list-style-type: none"> <li>「管理」と「運営」は別物である。「管理・運営計画」と一緒に考えていいのか。</li> <li>管理固定費の試算を行うべき。できりだけコストを削減し、その分を事業費に当てられるように。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>まずは「管理・運営」という考えから検討を始めていくという意味合いに捉えて欲しい。管理と運営の計画を分けている施設や、市民が管理を行っている施設もあり、こらからの検討での選択の余地がある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホールの利用について、秋の時期は文化連盟関係の催しでホールが押さえられており、その他の団体は借りにくい状況にあった。同じ時期や年末などにまとめて催しを行っても、客は忙しく観に行けないのではないか。バランス良く事業を配置していく必要がある。</li> <li>・現在、ホールの管理・運営はどこの機関が行うのが主流となっているのか。</li> <li>・指定管理者制度のメリットはどのような部分か。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設によってケースバイケースである。現状はホール全体の約 50%が指定管理者にて管理・運営を行っている。うち、約半数が民間事業者や NPO であり、半数が財団である。</li> <li>・行政は予算や人材が単年度で区切られてしまうため、複数年にわたる事業を行うのが難しい。また、上昇志向が欠け、充実した活動が行われていない事例も多い。</li> <li>・現在、横浜市民ギャラリーあざみ野の指定管理者として 6 年目となる。最初の 5 年は前運営者からの引き継ぎやコストの見直しなどに尽力した。また、行政はスペシャリストよりもゼネラリストを育成していく方針にある。芸術という専門分野では、管理運営に専門家が必要である。</li> </ul>
2 班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方式について、直営であれ指定管理であれ、きちんと目的が達成できるならばどこが行っても良いのではないか。</li> <li>・どの運営方式をとるにしても、管理運営の費用は問題となってくる。市はどこまでを負担するのか。</li> <li>・市民の意見を反映できる組織にしてほしい。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者の場合は、きちんと運営を行えるかの見極めが大切である。委託前の条件はしっかりと詰める必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が行政に全て任せきりは良くない。収益性をきちんと考えていくべき。</li> <li>・収益性を考えると利用料金も高くなる。利用料金が高いと結果的に使われない施設になってしまうのではないか。</li> <li>・利用料金は安くして欲しい。市民会館以上の利用料金では利用されなくなるのではないか。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収益性と公共としてのバランスをとっていくことが重要となる。また、野球などは一見球団が自立してスポーツとして成り立っているように見えるが、背景にはスポンサーがいるという仕組みもあり、全てを公共施設に当てはめる事はできない。ただし、公共となると収益性に関して甘くなってしまう部分があることも事実である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小田原市民は、市民ホール建設に対する反応が遅いのではないか。運営にて魅力的な部分を提示しなければ興味をひかれない。</li> <li>・講演をするときには経費を掛けないようにするので、施設使用料が高いとどうしても他の施設に利用者は向いてしまう。施設使用料を安くしてほしい。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共の施設として、施策がその方向に行くか、目を光らせて欲しい。</li> <li>・使用料を安く提供することは可能性だが、今度は、税金使い道として市民からコンセンサスが得られるか。それは皆さんの他の市民に対しての説得力でもある。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商売人気質もある。良いものを作れば使われる。良いものをつくって使用頻度を上げて使ってもらおう。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ そうすると使用料金が高くなる。</li> </ul>
その他	1 班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「あたらしい公共」という言葉がある。文化創造を通して、社会・経済システムを考えていくべき。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 骨子案では多数の案が挙げられているが、全てを網羅することは難しい。これからの検討の中で、どこを重要視していくかの優先順位を決めていく必要がある。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホールの利用には大きくわけてプロの利用とアマチュアの利用がある。一方で、若手などの人材育成も行っていく必要がある。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国的に昨今の傾向として、育成・養成に関する事業が増えて来ている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前計画の城下町ホールと、現在の市民ホールではまったく違った建物となっており、また文化施設としてのレベルも上がっている。市には、ホール建設後も継続していくようお願いしたい。</li> <li>・ 庁内で縦・横の繋がりをつくり、現在の担当者が関わらなくなっても、きちんと引き継ぎができるような体制を整えてほしい。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心と経済と一緒に動かねば発展していかない。</li> <li>・ 表現者のひとりよがりになってしまっはならない。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周知が不十分で活動が広がらず、一部の地域で完結してしまうことが多い。例えば駅に広告を出すなどは効果がある。施設の完成を待たずとも、今から取り組めることが多々あるのではないか。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手話、文字板の設置、字幕など、バリアフリーの面を充実させて欲しい。</li> <li>・ ハード面だけではなく、手話や速記ができる職員を配置するなど、ソフト・ハード両面からの対応を行って欲しい。</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例えば、インターネットを利用し、その場に職員がいなくとも画面上で即座に対応が行えるなどの設備も出てきている。今後、十分な検討を行っていく。</li> </ul>
	2 班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市ではH24年度に1名学芸員の採用を行うそうだが、美術をどのように位置づけているのか。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民がホールに来てくれるのを待っているだけでは時間がかかる。昔は学校の協力を得て学校公演などを行っていたが、昨今ではまず協力を得るのが難しい。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観る側として、友の会など通いやすく、情報を得られるものがほしい。</li> <li>・ ホールが出来てから取り組むのではなく、今からソフト面の充実を図っていくべきではないか。</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民の中には、この時代にホールを建設しなくてもいいのではないかという意見の人たちもいる。市民検討委員のメンバーで何か運動を行い、今からホールの必要性を示していくことはできないか。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホールにて技術面の育成を行っていけば、良い物ができていくのではないか。ホール職員の技術向上を図ってほしい。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化は人間の楽しみである。本物を提供し、本物を行っていくこと。まずはスタジオから市民参加を始めレベルアップし、本物を提供できるようにしたい。</li> </ul>		

## その他意見(ふせん)

### 事業

1 班
職員は手話を覚えて欲しい。
子どものスキル (0) →スペシャリスト (100) への育成が必要→将来の利用者
コマースの方法 (広報)
地区公民館のひとつとして→文化ホール? 全地区公民館で共通のイベントカレンダー (ジャンル別) →希望者にネット、メールで配信
素人と専門家を固定して考えずに、市民が専門に近づいていく育成システムも必要
2 班
南足柄、平塚、茅ヶ崎、秦野、厚木等、近くの文化財団と連携を取るようにしてほしい。ツアー等で行くイベントの情報、チケット販売、売上げに繋がることだと思います。
「小田原」でできないイベント、「小田原」にこだわったイベントとの実施
小田原の市街地だけに偏らないイベントの中心に
展示ホール松永記念館等、美術に関わる専門な学芸員を入れてほしい。小田原にとって美術が必要なのか位置づけを明確にしてほしい。
100 億円を生むおもしろい事しよーよ!! 手かしますよ!!

### 組織

1 班
新しい公として文化創造にあわせて社会システムを創造していくべき
評論や文化ジャーナリズムなどの「評価」の担い手も育成していくべき
2 班
強力な組織を作って欲しい。優秀な企画を立ててほしい
事業企画・推進役はかたよらないようにお願いします
サポーター制度 (資金調達含む)

### 市民参加

2 班
(他のスタッフも)文化サポーター、レセプションはチャレンジをするボランティアの育成だけでなく、仕事のレベルで動くスタッフを育成、確保する (雇用として考え)。新しいホールでのイベントのプレとして、市民会館での市民演劇やミュージカル、美術企画展の企画をして、新ホール建設に向けての市民へのアピールにする。
ここで働きたーい
指定管理だね

### 運営

2 班
ホールがない現時点から、ホール友の会のような市民のムーブメントとして、ホールが必要という空気をつくるのが予算をとる上で必要。
ホールは運営が第一! ・組織形態をどうするか ・市民が求める企画とは ・運営にあたる人選を! ・利用率稼働率をUP ・低料金での利用を
学生が借りやすいホールで

### 施設機能

1 班
屋上の有効利用 ・青空ホール ・一時待避所等
大ホールの小さいものを小ホールとしてください。奥行、バトンの数なども。よろしくお願いします。
ガラス張りは地震が来たらあぶないよ。
小ホールの固定席で決定してほしい。
機能の充実一例、照明の場合、素手で来て使用可はアマチュアが満足できる範囲で OK。(平素) プロは専門照明器具を持参する。大切なのはそれらを使えるスペースと電力の余裕。これを使いわけることにあると思う。
小ホールスクリーンの設置 (映画の上映)



・展示室 400 m <sup>2</sup> 確保（準備室とは別に） ・この他に 300 m <sup>2</sup> 位は確保したい（展示部分） それでないと公募・高校生を削るようになる
KAAT みたいな迷子にならない入りやすい単純な造りにしてください。
コスト低減例、1/9 会場の様に、特に必要なければコンクリート打ちっ放しでいいと思う。最近はもっと綺麗にできる。
市民ホールはハードとしての文化的価値を重視したい。心の拠り所になれるような。
私は観る側、聴く側の市民としては、観やすい、聴きやすいホールであれば良いと思います。ほとんどの市民がそう思っていると思います。
・今造る箱物として、未来の市民に恥ずかしくないものを残したいです。 ・変に豪華でなく、シンプル、適度なコスト（運営ふくむ）
名称は公募で私達市民が審査する
機能図の小ホール系機能（200～300 m <sup>2</sup> ）が固定席一部可変は、前ページの小ホール固定席と表現が違っている。一部可変なら全く意味が違って来る、どうなのか？
小ホールはアコースティックの音質重視で造ってほしい。
搬入口は広いんでしょうか、フラットですか？（ミュージカルやってます）
低コストで。使用料高いのはやめてえ。
市内にある他施設の利用を真剣に考えてほしい。
スタジオ、本質的な訓練、文化の本質を維持する環境をつくる。
大ホール、機能がやや置き去りにされているように感じます。設計者に「シューボックス型」の基本として設計することを切に望みます。
時間と場所を今一点ではなく、長い時間軸で諸施設のバランスの調和を考えてほしい。
良いホールが運営経費を稼ぐ面でも有利である。
30mのセットバックはおかしな話で納得できる理由があるか。有効利用が先だ。
小ホール、コンサートホールとしてプロセニウム可変を取り入れたい。
2 班
西相展ができるスペースを確保してほしい。展示室 400 m <sup>2</sup> 、大スタジオ 400 m <sup>2</sup> くらいか。移動壁使用する。階段で（エレベーター×）屋上に避難できるように。
大と小ホール搬入口、袖直結でお願いしたい。これからの運営にも大きく関わる問題。
基本計画が必ず活かされる設計を！ここは、専門委員の先生に是非お願いしたい。全然ちがうものが選ばれることのないように。
人口呼吸器の人の別室は造らないでほしい。一般の人と同じ場所でみれるようにしてほしい。
ホールの全体像を討議したい。
運営管理を視野に入れた計画でなければならない。
運営にお金をかけないとただの箱になる。
外観が歴史に配慮したデザインで。壁、内観は地元の素材である木を出来るだけ使う。
どこにでもあるホールではなく、小田原ならではのホールをつくる。特に小さなホールは木のホールを実現したい。
託児室 ・外から丸見えにならない。 ・トイレ、洗面所がある。 ・床がソフトである。 ・シンプルがよい。 ・避難の時、親がくる動線をしっかり考える。
レストラン、カフェは複数ほしい。
ホールにはアミューズメント性を持たせたい。音楽・演劇・美術のワクを超えて！
建物にはお金をなるべくかけず機能重視、シンプルに。
小田原、丹沢、南足柄などの県内産の木材を使ったホール「地域の素材を生かしたホール」
美術館並みの企画展示ができる 400 m <sup>2</sup> の展示スペースを確保してほしい。
展示室は 400 m <sup>2</sup> 以上必要があるとのことでしたが、共通ロビーやオープンロビーを利用して展示できないか（スタジオを共通利用するとのことですが）
歴史に残るホールづくりを！
展示スペースは現市民会館の 3 階小ホールより大きくなければ現在行われている行事はできなくなる。
展示室のスペースは現在の案、400 m <sup>2</sup> は水場等をいれての事であるか。展示そのもので 400 m <sup>2</sup> +ワークショップ（催事を含む）スペースとして 500 m <sup>2</sup> 近くは必要ではないか。
入浴施設+十分なトイレの数、いざとなる時のトイレ
帰宅困難者のための一時避難所
「手すり」は両側に（右利き、左利き、上下運動）
「環境配慮」からさらに踏み込んで「環境調和型」の設計を。

小田原は石の町でもある。石の素材感を使ってほしい。
「石」と「水」の風景を、石のまちとして。
様々な活動の様子が通り沿いに見られる様な建物の工夫があるといいです。
メインロビーから小田原城が見えるようにしてほしい。

### その他意見等(ひとことアンケート)

検討させるだけさせて、ほとんど反映できないのでは申し訳ないので、できる限りの努力を行政と市民が協力してすべきと思いました。
有益な意見交換会であったかと言うと NO。せめて班を4つぐらい合った方がよかったのではないかと交わされる会話が今までのワークショップから一歩も進んでないような内容であり、建設的な真新しい意見が何もなされなかった。
4班くらい？班があった方が良かった。
なるほど！こういう議論の方法があるのかと感じました。
1班と2班に分かれたことで頭の中を切りかえて議論できました。ジオラマがあつて良かったです。
館の歴史を残せる施設と作りたい。やはり、色々な文化団体と連絡する団体がないのではないかとということ。不満を解消していく団体が必要。
「あの劇場はいいね。」と言われる劇場は神奈川県にほとんどない。 芝居の出来に関しては劇団の責任だが、あのホールで”観る”、”観ない”の判断をお客様がするのは、劇場の責任。いいホールと言わせたいですね。
三の丸に出来るので小田原城にふさわしい、特徴のある（外観）、小田原ならではのホールを造ってほしい。機能は使い勝手の良い楽しいホールになってほしい。
演じる側、ホールを利用する側、情報を発信する側の集まりが検討委員だと、やはり感じた。 情報から選択して、ホールへ足を運ぶ側の市民意見、要望を聞く手段はないものか。 情報の発信の仕方がむずかしいと感じる。これからは事業市民参加をどのようにしていくかを発展させることが重要である。 検討委員からの行事案内をみて、また、すごい人が小田原にいっぱいいるんだなあと感じ、知ることができてよかった。
固まった頭と縛られた心で何を語ろうというのか？「小田原評定」ここにあり。最悪だ！傍聴するに値しない！
駐車場無料は無理なら、格安にて台数確保が小田原駅周辺には何よりも大事。どんないいもの造ってもここが満足しなければ従来のままと40年観てきた者の見識。依って1台でも多く望むために静的展示室を別館として扱う。 旨く説明できないのですが、検察庁と裁判所は移動不可（経費的）として、現大手門通りをもう少し幅狭ましくし、駅側に大幅セットバック、旧市民会館を取り壊しする（別の問題で、天守閣が国道一号線を走って来た時に正面から望める）。現学橋へ通ずる会館道は必要あれば残す。そして、市民ホールの動と静を抜けて、（展示室を別館として独立扱いに）、建物は、旧となる大手門通りと、今商売業わっている方々の地所及び市民会館一部敷地使用、こうした方が建設コストでも僅かでも低くできるのではと思うもの。 そして、忘れて欲しくないのは、この一画で業っている方の同時経営成り立ちを取り入れるべき方針を。 ※傍聴者からのひとことアンケートも含まれています。